

# 平成29年度第11回 教育委員会会議 会議録

- 1 日 時 平成29年10月16日（月） 13：14～16：32
- 2 場 所 3号館8階教育委員会室
- 3 出席者 <教育委員会>  
雪村教育長 山本委員 梶木委員 伊東委員 福田委員 今井委員  
<事務局>  
川田教育次長 岡田スポーツ担当局長 浜本総務部長 大谷学校教育部長  
日下社会教育部長 後藤教育施策推進担当部長
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 1名
- 6 会議内容

（雪村教育長）

それでは、ただいまより教育委員会会議を始めます。

本日は議案7件、協議事項1件及び報告事項8件です。

このうち教第39号議案から教第44号議案までの6議案については、教育委員会会議規則第10条第1項第3号により、長の作成する議会の議案に関する事。教第45号議案については、同項第4号により、社会教育委員、公民館運営審議会委員及び法律または条例に基づき設置する附属機関の委員の委嘱及び解嘱並びに任免に関する事。協議事項7、報告事項2、報告事項3、報告事項6及び報告事項8については、同項第6号により、会議を公開することにより、教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じるおそれのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるものとして、非公開としたいと思っておりますが、賛同いただけますでしょうか。

（6名の賛成により非公開案件を決定）

（雪村教育長）

ありがとうございます。

それでは報告事項5、第2回神戸市教員育成協議会について、総合教育センターより説明をお願いします。

## **報告事項5** 第2回神戸市教員育成協議会について

（田原総合教育センター首席指導主事）

9月20日に第2回神戸市教員育成協議会を開催しましたので報告します。

まず1ページは会次第です。今回の協議会では、育成指標の素案を提示して検討しました。

参加者は2ページのとおりです。欠席は大学の先生方2名と高専の先生で、あとは全員出席いただきました。大変たくさんの方に出席いただき、割とたくさん意見をいただいたと思っています。

3ページから7ページまでは、第1回の協議会で出た御意見及びその後に文書やメールで御意見をいただいております、育成指標策定にかかわるものを集約したものです。さまざまな御意見がありましたけれども、全体的にはやはり「シンプルなほうがよい」というものでした。

8ページをごらんください。それらの御意見を踏まえて、事務局として育成指標策定の方向性をまとめたものです。前回の教育委員会会議で報告させていただいた論点1から論点6に至るまで、このような方向性でつくことにしました。基本的には教員の育成指標を1本作りまして、それを基本として各校種、それから各職種特有のものについては、留意事項を付すことによって対応しようと考えています。また、ステージの段階の区分については、神戸市が求める着任時の姿を1本据えて、その後、研修の区切りを1つの区切りとして、前は5つあったのですが、最後の2つを一緒にして4つのステージを設定することにしました。

9ページをお開きください。神戸市の教員育成指標のステージの概要です。着任時の姿に加えて、第1、第2、第3、第4ステージということで作っています。

10ページをごらんください。これが9月20日の協議会でお示した素案です。この素案をもとにいろいろと御意見いただいたことが、11ページから後の議事録抜粋に載っています。学習指導のことや人材育成のことについて、いろいろな示唆や御意見をいただきました。いろいろと載っていますのでまたごらんください。

そして、その意見を踏まえて修正を加えたものが16ページのカラー刷りとなっている素案です。9月20日に示した素案から、この第2回協議会で得られた意見をもとに赤の部分を修正しています。

概略として、一番上に神戸市の求める教員像を大きく5つ掲げています。その下に「①学習指導」から「⑥神戸の特色ある教育」まで大項目を6つ設定し、それぞれの大項目の下にさらに小項目を整理して掲示しています。色は、上に掲げている部分と下の指標項目が関連するように考えているということを示すために色をつけています。「神戸市の求める教員像」の一番下「自律心のある教員」については、全ステージにおいて共通の指標であることから、下の大項目、小項目には入っていませんけれども、全体に関わるものであると御理解いただければありがたいと思います。

次回は11月1日に第3回協議会を予定しており、そこではこの素案をさらに検討して、指標（原案）をお示しして協議していただく予定です。あわせて各職種特有な部分の留意事項及び管理職の育成指標については、第3回の協議会にかけて御審議いただく予定です。

以上、報告です。よろしく申し上げます。

(雪村教育長)

神戸市教員育成協議会の件についていかがでしょうか。

(山本委員)

育成ステージを明確にしながらい目標を考えていくということは、非常に大事なことだと思いますし、いろいろなプロセスを経て決まった案だと思うので、よくできているなと思います。最終的にこんなふうきれいに全部をカラー刷りでまとめると見やすいです。現場へおりにいくときには、見やすさやわかりやすさが大事になると思います。

それから、やはりキーワードや覚えやすさのようなものがあって、ただ育成指標があって、探し出さないとわからないではいけないと思います。それから、各教員がこれを見返して自己評価をするときに自分がどれぐらいか、管理職が自分のところの職員を見てどうかという評価基準についても触れられていますけれども、これをいかにわかりやすく現場に周知、浸透させるかというところがすごく大事なところだと思います。

こういった資料や、これを抜粋したものをもう少しわかりやすくまとめて、初任者研修や8年目研修の場でどう生かしていくかというのが大事になると思います。こういうものがきちんとあって、今現場の中で自分はどれぐらいできているか、もしくはうちの職員はどれぐらい高まっているんだろうかということが、常に意識されないと意味がないと思います。このあたりの工夫もまた今後お願いできたらと思います。

(田原総合教育センター首席指導主事)

わかりました。実は、教員育成指標としてこの1枚だけを配るのではなくて、現在の研修案内に10ページほど加えて、ステージの意味や単語の解説も一緒にして出そうと思っています。また御検討いただく機会があると思いますので、その節はよろしく申し上げます。

(梶木委員)

この育成指標は着任時の姿から順番に書かれていてわかりやすいと思うのですが、今大学で指導している側として感じるのは、例えば、神戸市が教育実習を受け入れるときはこれぐらいというようなものはありますか。

(田原総合教育センター首席指導主事)

いいえ、教育実習のときというのはありません。

(梶木委員)

そこまでは踏み込まないのですね。

(田原総合教育センター首席指導主事)

そこまでは考えていませんでした。というのは、3回生で行かれる方や4回生で行かれる方などさまざまですし、これはあくまでも着任時の姿ということで設定しています。これを目指して各養成機関でお願いしますという形になろうかと思います。

(梶木委員)

着任時ということですね。養成機関はなかなか大変ですね。

(田原総合教育センター首席指導主事)

そうですね。そういう意味では、できるだけ現実的なものに沿うようにたくさんの御意見を大学からいただいていますので、また御意見がありましたらよろしくお願いします。

(梶木委員)

学生スクールサポーターとして学校に入っているときなどにも、いろいろと現場を見せていただいている、その中でも育てていただいている部分もたくさんあると思います。ありがとうございます。

(田原総合教育センター首席指導主事)

よろしくお願いします。

(福田委員)

確認ですけれども、第4ステージは17年目以降ということですが、17年といたら40歳ぐらいですよ。

(田原総合教育センター首席指導主事)

そうですね。

(福田委員)

40歳ぐらいというのは、非常に脂が乗っている年齢だと思いますが、この育成指標というのは、第4ステージ以降の、例えば管理職を目指すとか、あるいは管理職のステージはどうかということは議論されていますか。

(田原総合教育センター首席指導主事)

管理職の育成指標も別につくることになっています。また次回に提示させていただきますが、2段階考えていて、教頭、校長を想定しています。それができると当然その一歩前

があります。この第4ステージはいろいろと迷った結果、資質発展・円熟期と2つ書いているのですが、やはり40歳ぐらいの方と、50歳以降の方と、そこからまた管理職になる、学校マネジメントに回ってもらう方と複線化すると思いますので、そこはもう1つのところである程度、示唆できればいいかなと思っています。

(福田委員)

ぜひ連続性を持った計画をお願いします。40歳以降の人たちで管理職を目指すような、才能のある人を育成していくような計画を、ぜひ連続性を持ってつくっていただきたいと思います。管理職を目指す人が少ないということで問題になっているわけですね。だから、ぜひそこは節目としてきちんと議論していただきたいなと思います。

(田原総合教育センター首席指導主事)

わかりました。この後、これをもとに研修体系を作成し、さらに研修計画をつくっていきます。その研修体系、研修計画の中で、福田委員が言われていることを盛り込めるように努力していきたいと思っています。

(福田委員)

よろしくをお願いします。

(山本委員)

また、今は教員の多忙化についてもいろいろなことが言われているので、こういった形で研修する土台がはっきりでき上がったときに、どんどん研修がふえて多忙感を感じるということにならないように、そういったことも含めた視野で考えていただけたらありがたいと思います。

(田原総合教育センター首席指導主事)

十分配慮していきたいと思っています。

1つ1つのマス目に意味があります。シンプルにしなければいけないということもありますが、当然1つ1つのマス目が違います。でも、語尾の統一感や言葉の統一感を出そうとすると、一緒になってきます。そこの差を出す部分とそろえる部分で、今少し苦しんでいます。この後もこれについては検討を進めて、次回は11月13日の教育委員会会議に原案を提示させていただきたいと思っています。

(雪村教育長)

第1ステージの前に、神戸市が求める着任時の姿を入れているのは、大変意味がある気がします。ただ、ハードルの高さ随分差がある感じがしますね。例えば学習評価のどこ

ろは「学習評価の方法について理解している。」となっていて、ここまで来ているのかなと思いますが、コミュニケーションのところは「あいさつの受け答えがしっかりでき、コミュニケーションの大切さを理解している。」となっていて、当然でしょうと思うところもありますね。

(田原総合教育センター首席指導主事)

大学の先生方からも、一方ではこれでいいという意見もあれば、やはりこれは少しハードルが高過ぎるという御意見もあって、今調整をしている中ですが、教育長が言われたように、縦で見ると程度に差があるというのは感じているところです。

(雪村教育長)

ただ、これから組織の中で生きていく中で、コミュニケーションの大切さを理解しているというのは基本中の基本だから、入れておけばいいとは思いますが。

(田原総合教育センター首席指導主事)

そうですね。

(浦川教科指導担当課長)

そこはもう少し表現としてハードルを上げられないかなと思っているところです。コミュニケーションのところは、原案ではもう少し変わったものをお示しできると思います。

(梶木委員)

やはり社会人としての自覚を持って、というほうがいいかもしれませんね。

(浦川教科指導担当課長)

養成機関にお伺いすると、専門的なことは授業の中でお伝えできるけれども、基本的なコミュニケーションはどう身につけさせたらいいのかと、お悩みの声を聞きます。

(雪村教育長)

ほか、特によろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

続きまして、報告事項4、御影幼稚園の教育奨励賞受賞についてお願いします。

## 報告事項 4 御影幼稚園の教育奨励賞受賞について

(福田学校教育課首席指導主事)

それでは報告事項 4、御影幼稚園の教育奨励賞受賞について御報告します。

表紙をめくっていただき、1番、2番をごらんください。時事通信社第32回教育奨励賞ですが、時事通信社が1985年に創設して、創造性に富んだ特色ある教育を実践し、顕著な業績を上げた学校園に贈られています。本年度、全国の教育委員会等から推薦を受けた59件64校園の中から、御影幼稚園が特にすぐれているということで、優秀賞・文部科学大臣奨励賞という最高の賞を受賞しました。時事通信社が1985年に創設して以来32年の歴史の中で、幼児教育に対して最高賞が贈られるのは、御影幼稚園が初めてという快挙にもなっています。

3. 御影幼稚園の取り組みをごらんください。受賞の対象になった研究ですが、「遊び込むと片づけも楽しくなるって本当？」をテーマに、課題意識を持って生活する子供の育成を目指した研究です。審査委員からは、幼稚園教育の核心である「遊び」を段階と連続性を持つ「遊び込む」体験と捉えて、子供の主体性を育てているすぐれた取り組みであるというふうに高い評価を得ています。

4. 授賞式ですが、10月23日月曜日に東京の時事通信ホールにて開催されます。表彰状と楯の贈呈のほか、副賞100万円が贈られる予定になっています。御影幼稚園では、この100万円を活用して、藤棚の設置を行う予定だと聞いています。

事務局からの推薦書と、時事通信社発行の教育情報紙「内外教育」に掲載された受賞記事を参考資料としてつけています。

以上、御影幼稚園の教育奨励賞受賞についての御報告です。よろしく申し上げます。

(雪村教育長)

御影幼稚園の教育奨励賞受賞の件について、いかがでしょうか。

(梶木委員)

まずは、おめでとうございます。

(福田学校教育課首席指導主事)

ありがとうございます。

(梶木委員)

神戸市立幼稚園は数を減らしてきていますがけれども、こういうすごい賞をいただいているということで、ぜひ、ほかの園にも波及すればいいなと思っていることが1つです。

もう1つ、こういう幼稚園で育った子供さんが幼稚園から小学校に上がったときに、遊

びを置いてお稽古ばかりに行って、お片づけもしない子になっていくのではなくて、ちゃんと連続性を持った教育ができていくように、ぜひ小学校との連携もしていただけたらなと思います。よろしくをお願いします。

(福田学校教育課首席指導主事)

はい、わかりました。

(山本委員)

御影幼稚園で言っている「遊び込む」というのは、御影幼稚園だけの言葉ではなくて、市立幼稚園の中でよく「遊び込む」という言葉が使われていると思います。私もスクールミーティングで玉津第二幼稚園に行かせていただきましたが、先生方の中に、やはり「遊び込む」という言葉が使われている方がいました。その中身も教えていただきましたが、非常に大事なことだと思います。今回はデータもきちんととりながら、遊び込むことと片づけの関係性をきちんと見られているので、ぜひとも今後の幼稚園教育の柱にしていきたいです。

また、先ほど梶木先生からもあった小学校との連携について、小学校の低学年でもそのあたりは十分つなげていける場所だと思いますので、今後連携をとっていただけたら、神戸の特色の1つとできるのではないかなと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

(岩濱学校教育課指導主事)

はい、ありがとうございます。

(雪村教育長)

ほか、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

それでは続きまして、報告事項7、平成29年度神戸市スポーツ功労者表彰被表彰者決定についてお願いします。

## **報告事項7** 平成29年度神戸市スポーツ功労者表彰被表彰者決定について

(上田スポーツ体育課長)

それでは報告事項7について御説明します。

1ページをお開きください。平成29年度神戸市スポーツ功労者表彰被表彰者決定という



ことで、これは1年に1回開催している表彰制度です。今回は神戸市スポーツ功労者ということで19名の方です。後ほど詳しく御説明します。表彰選考は、そこに書いていませんけれども、ことしの9月19日に開催して、その中で決定したという経過です。

表彰式については、2番に書いているように、来月22日に市長より表彰を授与していただくことになっています。

次に5ページをごらんください。神戸市スポーツ功労者等表彰要綱ということで、趣旨に書いているように、本市スポーツの振興に著しく寄与した者及びスポーツに優秀な成績をおさめた者ということです。第2条には功労者表彰と特別表彰の2つがありますけれども、今回の報告は第6条の功労者表彰の被表彰者の決定というものです。

第6条で、スポーツの振興に著しく寄与した年齢満45歳以上という条件のほかに、4つの項目で表彰の対象にしています。1つ目が、あくまで推薦団体からの推薦ですがけれども、会長、副会長、理事長及びこれらに準ずる職に10年以上在職した方。2つ目の項目が、推薦団体の理事及びこれに準ずる職——コーチや指導員、または審判員等の職に20年以上在職をした者。それから3つ目が、推薦団体の会長、副会長、理事長及びこれらに準ずる職で退任をした者で、市長が特に適当と認める者。4つ目が、今の3つ以外で市長が特に適当と認めた者という、この4つの視点で被表彰者を決定したというものです。

今申し上げた(1)、(2)、(3)、(4)というのが、4ページの下の方の表に該当項目として数字が掲げられていると思いますけれども、これが今申し上げた、(1)に当たるのか、(2)に当たるのかを明記しているものです。

2ページ以降4ページまで19名を掲げています。1番が、神戸市陸上競技協会からの推薦で山内紫乃さんです。推薦理由が平成8年度から日本陸上競技連盟の公認審判員をされているということで、審判員歴が22年です。先ほどの要綱の2号に該当するものです。

以下、2番と3番と4番の方は、神戸市剣道連盟から山本博さんと乾信一郎さん、中川一穂さん。それから、5番が神戸市体操協会から山本俊春さん。6番、7番とバレーボール協会から笠原まゆみさんと前野淳子さん。それから、8番が柔道協会から平井孝明さん。9番、10番はバスケットボール協会からの御推薦で栗林孝年さんと濱口貴行さん。それから、11番がなぎなた協会から茶本卓子さん。それから、12番が神戸市スキー協会から柴田光治さん。13番が神戸市ラグビーフットボール協会から松原忠利さん。この方は、右側に1番と書いているように、理事長歴が11年あるということで、今回表彰の対象になっています。それから、14番、15番が神戸市中学校体育連盟、神戸市小学校スポーツ協会ということで、神戸市の校長先生の職を終えて、今、ここで活躍をされています。前川さんが副会長歴1年、中西康夫さんが理事長以上歴3年ということで、それぞれ3号の項目で今回被表彰者の対象となっています。

16番が西区体育協会から清水臣さん。次のページの17番が同じく西区体育協会から藤原武美さん。18番の方は神戸総合型地域スポーツクラブ全市連絡協議会の会長ですがけれども、中田進さん。会長歴が10年ということで、1号に該当します。

最後に、神戸市民ラジオ体操の会の横山光子さん。理事長歴22年ということで、2番の項目に該当するというものです。

以上、19名の方を表彰対象として、来月に表彰式を行うというものです。

以上です。

(雪村教育長)

スポーツ功労者表彰について、いかがでしょうか。

(今井委員)

参考までにお聞きしたいのですが、条件を満たす方というのは、漏れなくちゃんと対象になっていますか。所属団体によっては、ちゃんと管理できていないということもありますか。

(上田スポーツ体育課長)

これは毎年開催されるものですが、例年照会をかけています。あらかじめ各協会様に、こういう方が対象なのでしっかり見ていただきたいと連絡をしています。

(雪村教育長)

ほかに、何か御質問や御確認はありませんか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

続きまして、報告事項1、平成29年第2回定例市会9月議会の報告について、総務課よりお願いします。

## **報告事項1** 平成29年第2回定例市会（9月議会）の報告について

(豊永総務課長)

第2回定例市会の報告です。既に資料をお送りしていますので、簡単に要旨だけ報告させていただきます。

まず1つ目、文教子ども委員会が9月29日に開催されました。報告事項として、平成30年度兵庫県予算に関する提案・要望（教育委員会所管分）を報告しました。

これに関して、まず、障害児教育についてということで、新社会党の小林委員から御質問がありました。内容としては、インクルーシブ教育の今後の方向性という御質問でした。2つ目、県立多部制単位制高等学校の設置についてということで、民進こうべの平木委員

から、こういう多部制単位制の市内での人数はどのようなものなのかという御質問でした。それから、神戸マラソンについて、民進こうべの川内委員から、折り返し地点での混雑、安全対策についての御質問がありました。

2番、平成29年第2回定例市会一般質問が10月6日に行われました。1つだけ質問があり、中学校での食育の推進について、自由民主党の平井議員からの御質問でした。子供の嗜好に合わせるのではなくて、栄養面を最優先にしたおいしい給食をという趣旨の御質問でした。

報告は以上です。

(雪村教育長)

この件について、いかがでしょうか。

(今井委員)

給食に関する教育長の答弁の中に、水泳の千葉すずさんや、卓球の平野さんのアスリート食育講座が開かれたというお話がありますけれども、これは、たまたま運のよかった学校だけが特別に対象になっているのでしょうか。1校だけですか。

(豊永総務課長)

そうですね。アスリートに来ていただける学校は、限られた学校になります。

(岡田スポーツ担当局長)

百何十人おられれば全部の学校に行けるのですが、どうしても先生方が2人しかおられないので、そういうわけにはいきません。各学校のそれぞれのカリキュラムと、この先生の講座が合う学校にコンタクトをとって、今回はやらせていただきました。食育講座はこういう形で2名でやっていますけれども、ほかにもいろいろなオリンピックに来ていただいて、何校かではオリンピック教室のようなことをやっています。

(今井委員)

せっかくスペシャルな内容なので、例えばテレビ会議みたいな形で全校配信や、ライブ中継ができて、ほかの学校の生徒さんたちも受けられるような機会をうまく持つことが出来たらいいなと思いました。

(豊永総務課長)

そうですね。今回の内容は、2年の家庭科でトップアスリートの体験談をもとに食事に関する講義をして、その後調理実習も一緒に行ったという内容です。内容によって、なじむ、なじまないはあると思いますが、今後検討します。

(梶木委員)

学校での食育も大事だと思いますが、やはり基本家庭も大事かなと思います。今はお弁当はないかもしれませんが、中学生のクラブをやっている子は特に体づくりのために、保護者対象におうちでの食育をやっておられるところもあります。ダイエットのために女子が余り食べないで過ごす時期に、でも体をつくることは大事だよ、食べることは大事だよということ、食育とスポーツは、すごく大きな課題かなと思います。

先ほど今井先生がおっしゃったように、強くなるには食べるということも、ぜひいろいろな学校で正しく伝えていけたらいいかなと思います。

(豊永総務課長)

P T A協議会で、保護者に対して栄養摂取やバランスのよい食事に関して研修会も行っています。そういう家庭での取り組みについても、今後また力を入れていきたいと思えます。

(雪村教育長)

ほか、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

それでは引き続き、主要行事の報告と予定について、総務課よりお願いします。

## **その他報告事項** 主要行事の報告と予定

(豊永総務課長)

9月25日以降の主要行事は、記載のとおりとなっています。

今後の主要行事予定です。既に9月15日金曜日からは始まっていますが、10月21日土曜日まで市立学校園の運動会・体育会・体育大会が行われます。また、10月17日火曜日は全市教頭研修の教育委員講話。それから、10月19日木曜日は神戸市小学校体育研究発表会が六甲小学校で行われます。10月26日木曜日は都道府県・指定都市教育委員研究協議会が開催されます。

それから3番目、今後の委員会会議日程ですが、10月30日月曜日13時15分から定例会を予定しています。

以上です。

(雪村教育長)

何か確認されたいこと、つけ加えられることはありますか。

伊東先生、灘小学校での神小研図工部の授業研究会はいかがでしたか。

(伊東委員)

灘小学校にお邪魔させていただきました。この会議が始まる前に、委員の先生方に少しお話をさせていただきましたが、新聞紙を題材に、想像を膨らませるという授業を見せていただきました。我々は新聞紙といったら丸めてチャンバラをしたり、ボールをつくって打ったりという発想だったのですが、どちらかというところ、キャラクター、ゲームのヒーローやヒロインになってみたり、中には広いお風呂に憧れているのかお風呂をつくっていたお子さんもいらっしゃったので、我々が思っている子供と近い子もいれば、全く違う子供もいました。

私たちが小学校2年生のときに、どういう図工をしていたのかは思い出せないのですが、非常に楽しく、けんかにもならないような感じで、行ってよかったなという研究会でした。

(雪村教育長)

ありがとうございました。

ほか、特にございませんか。

ないようでしたら、その他、教育委員の皆さんから教育委員会会議で取り上げるべき項目について、御意見はありませんでしょうか。

何かございましたら、また後日でも結構ですので、事務局までお伝えいただきたいと思います。

それでは、ここで公開案件については全て終了しましたので、傍聴者の方は恐れ入りますが、御退席をお願いします。

(傍聴者 退席)

(雪村教育長)

それでは、ここから非公開案件に入ります。

報告事項6、平成30年度神戸市学校司書の募集についてお願いします。

**報告事項6** 平成30年度神戸市学校司書（学校図書館担当職員）の募集について

(宮崎生涯学習課長)

報告事項 6、平成30年度神戸市学校司書の募集についてです。資料の1ページをごらんください。

平成26年度からこの学校司書の配置を行っており、今回で5回目の募集となります。現在、小中学校で109人の配置が終わっています。ただ、全校で240校余りあり、大体45%の達成率なので、引き続き配置していきたいということです。

1に主な業務内容を書いていますけれども、ここは特に変更がありません。基本的には、学校図書館の整備、運営です。それから3番目に書いていますけれども、学校図書館を活用した授業等の支援にも力を入れていきたいと考えています。

それから、雇用期間は1年間ですので、平成30年の4月から平成31年3月末です。採用予定人数については、予算の都合がありますけれども、40名程度を募集できたらと考えています。

応募資格については、4(2)にあるように、司書や司書補の資格を有する者。また、2ページの一番上のおり司書教諭。こういったことでずっと募集をかけていたのですが、なかなか人材確保が難しいということもあり、前回の募集から、上から3つ目の黒点にあるとおり、教育委員会で主催する「講座 学校図書館入門」の修了者を新たに加えました。さらに今回は、文部科学省の「学校司書のモデルカリキュラム」が新たに定められたので、こちらの修了者も対象にしようということで新たに広げました。ただ、文科省のカリキュラムは結構厳しいものなので、なかなか数は少ないかなとは思っています。

勤務条件については、前回まではずっと時給1,000円で募集していたのですが、今年の4月からは時給が1,300円になりましたので、この上がったほうの時給で募集をかけるのは今回が初めてという形になります。

7の受付期間ですけれども、平成29年10月23日から12月4日までということで、10月20日にプレス発表を予定しています。また、広報紙K O B Eの11月号に掲載する予定です。説明は以上です。

(雪村教育長)

学校司書の募集について、いかがでしょうか。

(山本委員)

この雇用期間のところですが、1年間で勤務成績が良好な場合は更新ありということですね。

(宮崎生涯学習課長)

はい。

(山本委員)

更新は1年ごとで4回までということですね。

(宮崎生涯学習課長)

そうです。

(山本委員)

例えば、平成26年に採用された人だともうぼちぼち4回目の更新を迎えると思いますが、更新が4回までというのはどういうことになりますか。

(宮崎生涯学習課長)

平成30年度ですから、平成31年の3月で最後ということになります。

(山本委員)

最後ということは、終わりということですか。

(宮崎生涯学習課長)

当初は平成26年10月に採用され、半年だけで1回更新をかけているため4年半ということになります。その時点で4回更新を終わっているということになるので、そこで一旦、期間としては切れます。ただし、もう一度試験を受けていただいて、また同じ人に来ていただきたいと考えています。

(山本委員)

今、なかなか条件を満たす方がいないという状況で、先ほどの応募資格も考えると、いい人には残っていただきたいと思います。学校司書が入ったところは随分と助かっている、または子供たちが図書館を使うのに非常に役立っているという話を聞いていますので、どんどん続けていただけたらありがたいです。

全体的なことと言えば、恐らく文科省の調査では小学校、中学校への学校司書の配置は大体5割を超えて6割弱ぐらいが平均だったと思います。

(宮崎生涯学習課長)

そうです。

(山本委員)

神戸がそこに追いつこうと思うと、そういう方にやめていただくとなかなか難しくなると思います。

(宮崎生涯学習課長)

そうです。

(山本委員)

その方たちの今後のことと、それから、やはり現場は人が足りないということを考えると、学校司書に入ってきていただくと非常に助かります。全校への配置も急いでいただきたいというのが、恐らく大方の声ではないかなと思います。

(宮崎生涯学習課長)

特に、平成26年に採用された方で、今も残っている方が20人余りいるわけですがけれども、非常にいい人が多いので、やはり残っていただきたいと思っています。

(山本委員)

そうですね。ぜひよろしくお願いします。

(福田委員)

この勤務時間や勤務日は、非常勤で200日以内ということですね。例えば、非常にいい方の場合ですが、1つの学校では200日以内だけど、もう1つの学校も兼務できるという制度にすれば、2つの学校に行くことができるわけですね。今のお話をお聞きしたら、そういうことも考えていかないと、人材不足でいい人の取り合いになるのではないかなと思います。その辺をもう少しフレキシブルにすれば、2倍の学校に配置できるわけですね。そんな議論はされましたか。

(宮崎生涯学習課長)

現在神戸市として進めようとしているのは、1校専任という形です。他都市では、1人の人に複数校をやっていただくという事例があります。

(福田委員)

他都市ではありますか。

(宮崎生涯学習課長)

はい。事例はあるのですが、基本的に子供がいる時間帯にできるだけあいている学校図書館をつくりたいということになると、やはりその学校に専任の方——いわゆる「チーム学校」の一員としての学校司書を配置したいという思いが強くなります。

おっしゃっていることは非常によくわかりますが、そこはもう少し先の検討課題になると思います。



(福田委員)

そういう仕事をする人が、僕はプロフェッショナルだと思いますね。優秀な方、学校として役に立っていて絶対に確保したいという人に対しては、神戸市としてはやはりそういうことも考えていったほうがいいのではないかと思います。きょうあすと言っているわけではないので、そういうふうにしていかないと、これから人はなかなか出てこないで、今後検討していただければと思います。

(日下社会教育部長)

福田先生がおっしゃっていただいたようなことも、今後の課題として検討していきたいと思います。

(梶木委員)

もう一回確認ですけれども、4回更新されて、半年休んだらもう1回いけるということですか。何日休むのですか。1日でいいですか。

(宮崎生涯学習課長)

今、おっしゃったことは労働契約法の話だと思いますが、この学校司書は特別職の非常勤嘱託職員という位置づけでやっているのです、その適用を受けるとは考えていません。

(梶木委員)

ならば、4回と限らなくてもいいですか。

(宮崎生涯学習課長)

最初に採用したときに、4回更新ということでスタートしているので、一度そこでという格好になると思います。

(梶木委員)

そういう意味では、半年お休みをするようにしなくても、いい人ならすぐに更新できるということですね。

一旦雇用をやめてというような形ではなくて、またすぐ新規で採用ができるということですね。

(宮崎生涯学習課長)

はい。そのように考えています。

(梶木委員)

ちゃんとした仕事としてリードしてくれるような人が育つといいですが、この雇用では育たないですね。

(福田委員)

私も魅力のあるような印象を受けません。例えば、200日じゃなくてもっとトータルで時間的に物すごく仕事ができるようなものを含めていますよとか、他都市とはちょっと違いますよとか、プロとして認めていますよというような、魅力的な仕事・職種だというふうに伝えてほしいと思います。

(雪村教育長)

ちなみに、今年の応募は何人ぐらいですか。

(宮崎生涯学習課長)

今年の応募が106人です。この4月の採用は合格者が35人で、倍率は3倍になります。

(日下社会教育部長)

実際はもともと140余り来ていたのですが、途中で辞退者も結構出てきたので、最終来られたのは106人です。やはり実質3倍ぐらいの人に来てもらわないと、なかなかいい人がこないと思います。

(雪村教育長)

よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

また、応募状況が確定したら報告してください。

それでは、教育委員会会議としてはここで閉会をさせていただきます。

**閉会 : 午後4時32分**